

第8回『(仮称)釜ヶ崎夜間学校』 一人でも多くの仲間の参加を!

10.2

本日夜ワ時より、『希望の家』一階にて テーマ曰く『人夫出し』を考へる

ここ釜ヶ崎は、土木や建設などの日本経済の重要な仕事をこなす労働者の町です。しかし労働条件、衛生、環境文化など基本的な生活の全この面において、対策がたてられていません。そればかりか、労働者を使えるまでこき使いつくす社会構造として釜のこのような状況は放置されたままになっています。こうしたなかで、お互いに学びあい、お互いの力を出しあひながら一人一人の労働者が力をつけていくことは大切なことではないでしょうか。

秋空の下へ本日集会後話合い
ハイキングを計画中
釜ヶ崎夜間学校では、今まで参加した人を中心に、と多くの仲間と一緒にどこかへと考えています。

私たちは、できるところから一つひとつ、考へながらお互いの経験を出しあう場をつくりあげ、やがてそれが、問題の解決に至る力となるような労働者の夜間学校となればと願っているのです。

今回は、釜ヶ崎の労働問題について考へてみたいと思っております。釜ヶ崎の人口のうち約一万人八千人が日雇労働者といわれています。日雇労働の就労先は、土木・建設・製造などの産業にわたっています。そのいずれもが、下請け構造の中の末端であるのが特徴です。と同時に、就労形態に問題があります。その中で手配師・人夫出しの問題は大きなことなのです。

ことに人夫出しは、雇用した労働者以外の業者へ提供することによって利

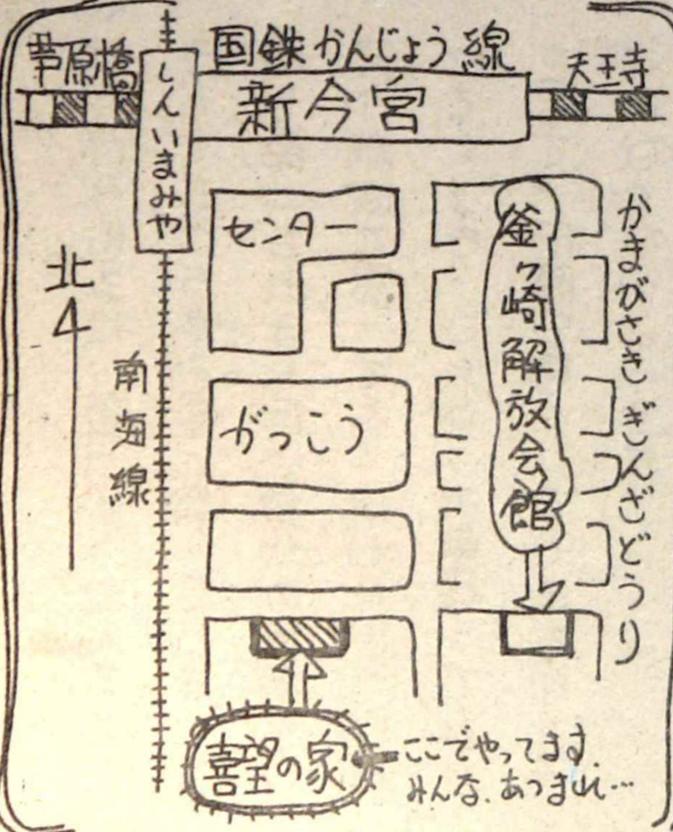
油を得ています。自分のところで直接使用しないために条件違反や、いくつもの業者を経てその度にピンハネされ低賃金となります。賃金未払いや暴力事件も起っています。

実際にいろいろこれに関する経験をどつ人も少くないでしょう。そういう経験を話しあひ、みんなできに考へていきたいと思ひます。

ぜひ、参加してください。

日(仮称)釜ヶ崎夜間学校
運営委員会 準備会
(電話は毎週不旺日、夜七時半から九時の間にかけてください。)

※「希望の家」への地図です。



(仮録)釜ヶ崎夜間学校ニュース

第7回報告 テーマ「肝臓の病気について」

「肝じんかなめ」の肝臓のはなし

自分のからだは自分で守ろう

釜ヶ崎の病気のうち、結核について多いのが、「肝臓病」です。

前回はその肝臓について話し合いました。「肝じんかなめ」の肝にあたる肝臓は、食べたものを胃で消化したあと栄養を吸収して体内に送る大切なところですよ。

そのはたらきは、解毒、代謝、貯蔵、排泄、循環、ホルモン調整などです。

肝臓の病気としては、肝炎、肝硬変、肝臓ガンがあります。また肝臓につながる胆道との関係で胆石症や胆道ガンがあります。

いったん肝臓を悪くすると大変なおすのがむづかしく、治療も進行をとめる程度です。しかも胃のようにすぐ痛んだりしないので、病気にいかかってもすぐに発見できないもので、倒れるま

で無理して、とりかえしのつかない病状になることもやっかいな肝臓病の特徴です。

どうして釜ヶ崎に肝臓病が多いのかというと、労力がきついこと、食生活が十分でないこと、十分に休養がとれる住まい(ドヤ)の環境が良くないことなどがあげられます。

特に食生活では、アルコール依存(いぞん)のわゆるアル中が多いのと、バウンスのよい食事がとれず、かたよったものを食べざるをえないことです。

「自分のからだは自分で守る」ということはわかっているても、釜ヶ崎のなかではいつい環境にまけてしまおうという声は、いつわらざる実感でしょう。病院に入ったり、飯場に仕事に行ったりすると「酒を飲まない」とケジメ

がつけられるに、釜ヶ崎帰ってくることもうしても立ち呑み屋に寄ってしまうという話も出ました。自分の気持ちが強ければと思っても、まわりについて負けてしまう。これがつみ重なってムリをして、肝臓を悪くしてしまうケースが少なくないようです。

わたしは酒は百薬の長と思って飲んでる。しかし絶対に限度を越しては飲まないという人。酒をやめた方がいい。どうしてもやめられないで悩んでいる人。

あちこちの病気で苦しんでいる人などが参加して、あらためて「健康」のありがたさを確認しました。

そして病気の人は早く治すよう努力し元気な人は健康に注意していつまでも働ける体をつくっていくことが大切である、一同つくづく感じたものでした。

※前回の(9月18日)の報告でした。